

JR四国グループ

中期経営計画2025の達成に向けた取組み

【2022年度第3四半期 報告書】

2023年2月17日

四国旅客鉄道株式会社

目次

本報告書は2020年3月に国土交通大臣より受領した指導文書に基づき、四半期毎に実施される国土交通省との検証結果を報告するものです。

1. 収支の状況

- (1) 2022年度第3四半期 連結決算
- (2) 2022年度第3四半期 単体決算

2. 主要施策KPIの達成状況

- (1) 主要施策KPIについて
- (2) 検証項目一覧
- (3) 2022年度第3四半期の検証結果（総括）
- (4) 2022年度第3四半期の実績等

1. 収支の状況

(1) 2022年度 第3四半期（4～12月） 連結決算／前年度比較／グループ全体の状況

○連結損益計算書

第3四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率(%)	(単位：億円) 対2019年度 比率(%)
営業収益	217	294	77	135.8	79.0
営業費	388	420	32	108.5	95.6
営業利益	▲ 171	▲ 126	44	—	—
営業外損益	150	126	▲ 23	84.1	—
経常利益	▲ 20	▲ 0	20	—	—
特別損益	7	▲ 0	▲ 7	—	—
四半期純利益	▲ 13	▲ 1	12	—	—
親会社株主純利益	▲ 13	▲ 1	12	—	—

・営業収益は、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）による行動制限の緩和や四国アフターデスティネーションキャンペーン（以下、「四国アフターDC」という。）の開催などから、運輸業、ホテル業、物品販売業などにおいて増加し77億円の増加となりました。しかし、感染症の影響前である2019年度比は8割程度にとどまりました。

・営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、増収に伴う売上原価の増加や資源価格高騰の影響による動力費の増加などにより、32億円増加しました。結果、営業利益は前年度より44億円改善し、126億円の赤字となりました。

・営業外損益は、今年度も国からの「経営安定基金の下支え」支援に伴う貸付資金を確保するため売却益を積み上げましたが、前年度、株式市場の好調時に評価益を実現した反動から23億円の減少となりました。結果、経常利益は前年より20億円改善し、6百万円の赤字となりました。

・特別損益は、受取保険金や災害補助金の減少などにより7億円悪化し、法人税等を加味した親会社株主純利益は12億円改善の1億円の赤字となりました。

(1) 2022年度 第3四半期 (4~12月) 連結決算/前年度比較/セグメント別の状況

○セグメント情報

第3四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率 (%)	(単位: 億円) 対2019年度 比率 (%)
営業収益					
運輸業	127	170	43	134.0	71.4
物品販売業	41	49	8	120.2	77.5
建設業	57	61	4	107.2	117.9
ホテル業	27	48	21	178.2	90.4
不動産業	13	17	4	132.0	119.9
その他事業	43	49	6	114.7	96.8
営業利益					
運輸業	▲ 162	▲ 133	28	—	—
物品販売業	▲ 2	0	2	—	10.5
建設業	3	4	1	143.2	—
ホテル業	▲ 9	3	12	—	69.6
不動産業	▲ 0	1	1	—	39.2
その他事業	0	1	1	—	42.9

(注) セグメント別の営業収益は、外部顧客への営業収益のほか、他セグメントへの営業収益を含んでおります。

・運輸業
鉄道及びバスの運輸収入が増加したため、増収増益となりました。しかし、感染症による厳しい状況は継続し影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

・物品販売業
店舗販売収入が増加したため、増収増益となりました。しかし、感染症による厳しい状況は継続し影響前である2019年度比は8割程度にとどまりました。

・建設業
瀬戸大橋の塗替工事などの受注が増加したため、増収増益となりました。

・ホテル業
JRクレメントイン今治及び姫路の開業や県民割、全国旅行支援の効果などにより宿泊収入が増加したため、増収増益となりました。

・不動産業
マンションや宅地の分譲販売、テナント賃料が増加したため、増収増益となりました。

・その他事業
機械装置やJRからのシステム関連の受注が増加したため、増収増益となりました。

(2) 2022年度 第3四半期 (4~12月) 単体決算／前年度比較／当社全体の状況

○単体損益計算書

第3四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率 (%)	(単位：億円) 対2019年度 比率 (%)
営業収益	133	170	37	127.7	76.3
鉄道運輸収入	99	131	31	131.8	72.6
その他収入	33	39	5	115.6	91.7
営業費	286	301	14	105.2	101.6
人件費	100	102	1	101.5	92.5
動力費	14	23	9	165.0	159.1
業務費	45	55	10	122.1	101.8
修繕費	53	53	▲ 0	99.8	99.5
諸税	11	10	▲ 1	89.0	101.3
減価償却費	61	57	▲ 4	92.7	106.7
営業利益	▲ 153	▲ 130	22	—	—
営業外損益	146	125	▲ 21	85.5	—
基金運用益	115	88	▲ 26	76.7	—
(運用利回り%)	(7.38)	(5.67)	(▲1.71)	—	—
特別債券利息	26	26	—	100.0	—
経常利益	▲ 6	▲ 5	1	—	—
特別損益	6	▲ 0	▲ 6	—	—
税引前四半期純利益	▲ 0	▲ 5	▲ 5	—	—
四半期純利益	▲ 0	▲ 6	▲ 5	—	—

・営業収益は、感染症による行動制限の緩和や四国アフターDCの開催などから鉄道運輸収入は31億円、その他収入が5億円の増加となりました。しかし、鉄道運輸収入は感染症の影響前である2019年度比で7割程度にとどまりました。

・営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、資源価格高騰の影響などから動力費や業務費が増加し、14億円増加しました。結果、営業利益は前年度より22億円改善し、130億円の赤字となりました。

・営業外損益は、今年度も国からの「経営安定基金の下支え」支援に伴う貸付資金を確保するため売却益を積み上げましたが、前年度、株式市場の好調時に評価益を実現した反動から21億円の減少となりました。結果、経常利益は前年より1億円改善し、5億円の赤字となりました。

・特別損益は受取保険金や災害補助金の減少などにより6億円悪化し、法人税等を加味した四半期純利益は5億円悪化の6億円の赤字となりました。

(2) 2022年度 第3四半期 (4~12月) 単体決算／前年度比較／事業別の状況

○事業別

第3四半期累計	2021年度	2022年度	増減	比率 (%)	(単位：億円) 対2019年度 比率 (%)
鉄道事業					
営業収益	118	153	34	129.6	73.7
営業利益	▲ 154	▲ 130	23	—	—
関連事業					
営業収益	15	17	2	113.4	109.0
営業利益	1	▲ 0	▲ 1	—	—

・鉄道事業

感染症による行動制限の緩和や四国アフターDCの開催などから営業収益は34億円の増加となりました。しかし、感染症の影響前である2019年度比は7割程度にとどまりました。

営業費は、継続して経費削減に取り組みましたが、資源価格高騰の影響などから動力費や業務費が増加し、11億円増加しました。結果、営業利益は23億円の改善となりました。

・関連事業

10月に完成したマンションの販売収入により、営業収益は2億円の増加となりました。

営業費は、マンションの売上原価やコンサルティング費用の増加などにより3億円増加しました。結果、営業利益は1億円の悪化となりました。

2. 主要施策KPIの達成状況

(1) 主要施策KPIについて

中期経営計画2025の施策のうち、2022年度に取り組む主要なものについて、KPIとKGIを設定し、本検証の対象としました。収入やご利用者数の項目については、業種・業態の特性に応じて感染症の影響を見込んだKPIを設定しました。

※KPI（Key Performance Indicator）とは、最終的な目標（KGI：Key Goal Indicator）を達成するための過程を計測する中間指標です。

(2) 検証項目一覧

		KPI項目
鉄道運輸収入の安定的な確保		①鉄道運輸収入の確保 ②利便性向上によるお客様満足の上昇 ③新チケットシステム検討・システムリリース ④ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員 ⑤イベントの実施及び地域イベントと連動した取組み ⑥「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興
非鉄道事業における 最大限の収益拡大	ホテルセグメント	⑦(株)JR四国ホテルズの売上高
	駅ビル・不動産セグメント	⑧高松駅ビル開発の推進 ⑨J.CREST県庁前（高松市天神前マンション）の事業推進
	飲食・物販セグメント	⑩四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上高
生産性向上・その他		⑪多度津工場の近代化 ⑫コスト削減の取組み ⑬運転資金の確保

2. 主要施策KPIの達成状況

(3)2022年度第3四半期（10～12月）の検証結果（総括）

○検証項目13項目のうち、9項目でKPIを達成、3項目で不達成、1項目で一部達成となりました。

○「鉄道運輸収入の安定的な確保」と「非鉄道事業における最大限の収益拡大」については、全国旅行支援を活用した商品造成・販売、各種取組みによりご利用の促進に努めました。これらの結果、収入関係の項目で「鉄道運輸収入の確保」の定期外収入、「ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員」、「(株)JR四国ホテルズの売上高」、「四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上高」のKPIについて達成することができました。また、お客様の利便性向上施策やマンション事業推進の項目でも計画通り進め、KPIを達成しました。

○「生産性向上、その他」については、多度津工場の近代化で工程の見直しが発生し不達成となりましたが、コスト削減のための各種施策及び運転資金の確保に計画通り取組み、KPIを達成しました。

○4Qは、2022年度最後の四半期として、KGIの達成に少しでも近づけられるよう、各種取組みに尽力してまいります。

(4) 2022年度第3四半期の実績等

① 鉄道運輸収入の確保

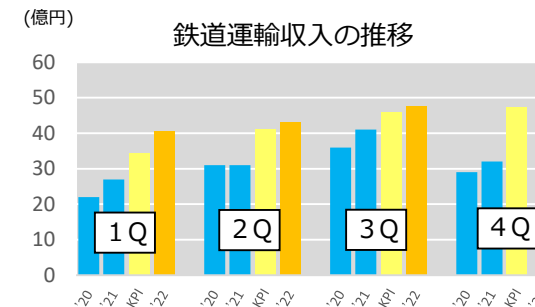
当社の収益において最大の割合を占める鉄道事業の収益確保に取り組んでいきます。

定期収入			定期外収入		
3Q KPI	3Q 実績	達成率	3Q KPI	3Q 実績	達成率
10.2億円	10.0億円	98.6%	35.5億円	37.5億円	105.6%



2022年度KGI
鉄道運輸収入169億円の達成

- ◆ 検証結果
 - ・全国旅行支援を活用した旅行商品の造成・発売による鉄道利用促進や、チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」サービスを開始し、利便性向上をPRしました。
 - ・感染拡大があったものの、本州方面のご利用の回復が見られたことから収入目標を達成しました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・3Q累計では計画比108.3%と計画を上回っており、KGI達成は可能と考えられますが、引き続き全国旅行支援を最大限活用した商品発売に努めるとともに、インバウンドの復活に向けた取組みにより収入回復を目指します。



② 利便性向上によるお客様満足度の向上

お客様満足度の向上を目指し、各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実等に取り組めます。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況
チケットアプリ先行稼働（割引きっぷ等の一部商品）、お客様アンケートの実施	実施済み	○



2022年度KGI
各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実

- ◆ 検証結果
 - ・チケットアプリを11月に先行稼働し、一部の割引きっぷの取扱いを開始しました。
 - ・2022年12月12日～2023年1月13日にサービス改善アンケートを実施しました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・今後は、アンケートの内容の見直しを図りながら、毎年度1回実施する予定です。
 - ・引き続きお客様のニーズを踏まえた各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実に取り組めます。



(4) 2022年度第3四半期の実績等

③新チケットシステム検討・システムリリース

2023年春に、スマートフォンによりJR四国エリア内のきっぷを購入できるチケットアプリの公開を目指します。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況	2022年度KGI
2023年春のチケットアプリ（本稼働）公開に向けた開発を進める。	実施済み	○	2023年春のチケットアプリ（本稼働）の公開準備完了

- ◆ 検証結果
 - ・ チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」を11月に公開し、先行稼働版として一部の割引きっぷの取扱いを開始しました。
 - ・ チケットアプリの本稼働版についてシステム開発を進めました。

- ◆ 今後の取組み
 - ・ チケットアプリの本稼働版を完成させ、2023年春の公開に向け係員教育等の準備を進めます。



【JR四国チケットアプリ】

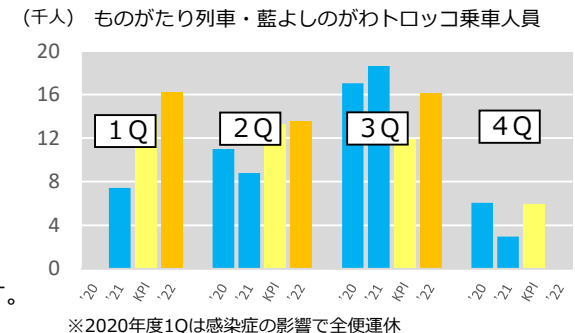
④ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員

魅力的な観光列車やトロッコ列車の運行により、四国への誘客促進や鉄道のご利用促進に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率	2022年度KGI
11,800人 +フィオーレ※440人 ※グリーン個室	16,150人 +フィオーレ553人	136.5%	45,000人+フィオーレ1,790人

- ◆ 検証結果
 - ・ イベントや特別運転をニュースリリースやSNS等で情報発信し、積極的な話題の提供を行いました。
 - ・ 車内のアラカルトメニューやお土産等のブラッシュアップを図ることで列車の魅力付けに努めました。
 - ・ 全国旅行支援が開始されたことが追い風となり、想定以上のお客様のご利用がありました。

- ◆ 今後の取組み
 - ・ 引き続き、様々なイベント等の実施やアラカルトメニュー、お土産等のブラッシュアップを図り、列車の魅力づくりや利用促進に努めるとともに、積極的な情報発信を展開してまいります。



(4) 2022年度第3四半期の実績等

⑤ イベントの実施及び地域イベントと連動した取組み

各種イベントの実施及び地域イベントと連携した商品の造成や販売に取組み、四国への誘客促進に取り組めます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率	2022年度KGI
◆瀬戸内国際芸術祭／えひめ南予きずな博／しおかぜ・南風リバイバル運転 旅行商品・特企商品 販売額 19.3百万円 (16企画 1,600人)	旅行商品・特企商品 販売額 13.3百万円 (21企画 1,018人)	68.5%	◆地域イベント、リバイバル運転 旅行商品・特企商品：販売額50.1百万円 (47企画 4,430人)

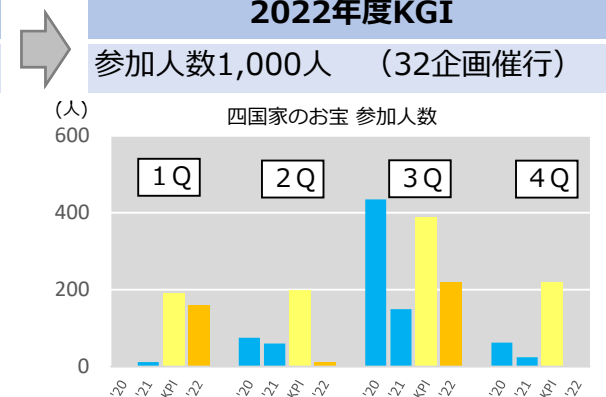
- ◆検証結果
 - ・瀬戸内国際芸術祭については、2019年度ほどお客様のお申込みが進まず、最少催行人員の多いチャーター船利用の商品が中心であったことから不催行となったコースが多くなりました。
 - ・しおかぜ・南風リバイバル運転等については、鉄道150年の盛り上がりもあり、また、期間中後半は感染症が落ち着いていた時期と重なったことから、計画を上回る実績となりました。
- ◆今後の取組み
 - ・感染症が落ち着くまでは、少人数でも催行できるタイプの商品を中心に造成を行います。
 - ・地域イベント連動型はイベントの盛り上がり大きく影響されるので、自社独自の周年行事やイベント等の実施と合わせた商品造成を行います。

⑥ 「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興

四国の地域資源・文化資源を掘り起こし、地域と協働して観光素材に磨き上げ旅行商品として販売することで、観光による地域活性化に取り組んでいます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率	2022年度KGI
参加人数 390人 (13企画催行)	参加人数 219人 (9企画催行)	56.2%	参加人数1,000人 (32企画催行)

- ◆検証結果
 - ・年度初計画（13企画）のうち、3企画は4Qに、1企画は来年度に延期となり、9企画の設定となりました。そのうち、四国家のお宝BESTの1企画は集客不足により催行中止となりましたが、4Qに設定していた企画を3Qで実施しました。
- ◆今後の取組み
 - ・4Qについては、四国内の4国立大学との連携による四国家のお宝の設定を開始します。今後も、自治体、大学、信用金庫、四国家サポーターズクラブ等との連携による観光開発、新規顧客の開拓に取り組めます。



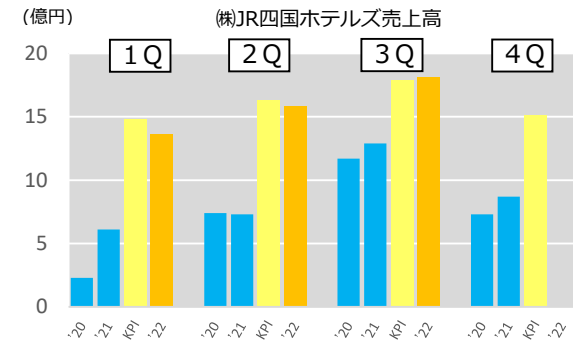
(4) 2022年度第3四半期の実績等

⑦ ホテルセグメント ー(株)JR四国ホテルズの売上高

マーケット動向等を注視しつつ、幅広いお客様にご利用いただける取組みやサービスレベルの向上に努めます。

3Q KPI	3Q 実績	達成率	2022年度KGI
17.9億円	18.1億円	101.1%	64.2億円

- ◆ 検証結果
 - ・ 行動制限が解除され、県民割や全国旅行支援等により、多くのお客様にご利用いただきました。宿泊部門を中心とした売上確保に努め、計画を達成しました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・ 感染症の状況を注視しつつ、引き続きお客様に安心してご利用いただくとともに、全国旅行支援等の活用により、需要の獲得に努めます。



⑧ 駅ビル・不動産セグメント ー高松駅ビル開発の推進

街の「顔」となり、人が集い、にぎわいあふれる拠点を目指し、2023年度の開業に向け取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況	2022年度KGI
建設工事 (進捗率30%)	実施済み	○	建設工事 (進捗率50%)

- ◆ 検証結果
 - ・ 商業棟は、基礎工事が完了し、鉄骨の組み立てに着手しました。
 - ・ 駐車場棟は、基礎工事を行っています。
 - ・ 既存設備の改修工事を行っています。
- ◆ 今後の取組み
 - ・ 建設工事の計画的な推進に向け、施工管理に努めます。



【完成予想図】

(4) 2022年度第3四半期の実績等

⑨ 駅ビル・不動産セグメント —J.CREST県庁前（高松市天神前マンション）の事業推進

JR四国ブランドの分譲マンション「J.CREST県庁前」の2023年度分譲完了に向け、建設・販売を推進します。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況
第二期販売開始	実施済み	○



2022年度KGI
2023年度2Qの竣工・引渡しに向けた施工と販売活動

- ◆ 検証結果
 - ・計画通りマンション中層階の躯体工事を完了しました。
 - ・3Qより第二期販売を開始したため、新聞折込チラシやテレビCM等の広告宣伝を積極的に実施しました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・2023年度2Qの竣工に向けて、建築工事の工事監理を確実に行います。
 - ・第一期・第二期販売住戸の早期契約のため、引き続き販売促進に努めます。



【外観イメージ】

⑩ 飲食・物販セグメント —四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上高

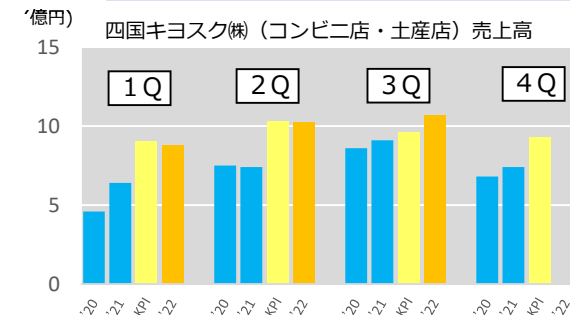
地元のお客様に向けた商品の品揃えを強化するとともに、大型イベントの開催に合わせた取組みにより売上高の確保を図ります。

3Q KPI	3Q 実績	達成率
9.6億円	10.7億円	111.6%



2022年度KGI
38.4億円

- ◆ 検証結果
 - ・コンビニ店舗においては計画比116%。土産店舗は計画比115%でした。
 - ・全国旅行支援により多くのお客様にご利用いただいたほか、店舗リニューアルや営業時間の延長などお客様の利便性向上に努め、計画を達成しました。
- ◆ 今後の取組み
 - ・引き続き各種キャンペーンの積極的な告知など販売促進に努めるほか、店舗リニューアルによる効果を検証しつつ、他店舗においてもリニューアルを検討し、お客様の利便性向上に努めてまいります。



(4) 2022年度第3四半期の実績等

⑪ 多度津工場の近代化

建物や機械設備の更新にあわせ、自動化やレイアウト変更を行うことで作業効率の大幅な改善に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況	2022年度KGI
工事の完了：車両ゲート等設置、エンジン塗装設備設置	工事未完	×	各種設計の完了、年度工事の完了

- ◆ 検証結果 ・ 工事予定地で汚染土壌が検出されたことから、その対応策のため工程の見直しが必要になりました。
- ◆ 今後の取組み ・ 対策実施の上、早期の工事着手・完了を目指します。

⑫ コスト削減の取組み

感染症の影響により厳しい状況が続くことを踏まえ、業務のデジタル化や安全に影響しない修繕費の見直し等により、グループを挙げてコスト削減に取り組みます。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況	2022年度KGI
コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）	コスト削減（JR四国 0.7億円、グループ会社0.6億円）	○	コスト削減 （JR四国1.6億円、グループ会社0.4億円） 要員削減に向けた取組みの推進 （△25名程度）

- ◆ 検証結果 ・ （当社）業務のデジタル化、安全に影響しない修繕費の見直し、通信回線の見直し等に継続して取り組みました。
- ・ （グループ会社）各社において、要員の見直しや広告宣伝費の削減等に取り組みました。
- ◆ 今後の取組み ・ これまでに実施している施策の継続的な実施や新たな施策にも取り組み、引き続きコスト削減に努めます。

⑬ 運転資金の確保

感染症の影響が見込まれる中、事業継続を確実なものとしします。

3Q KPI	3Q 実績	達成状況	2022年度KGI
現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保	確保	○	現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保

- ◆ 今後の取組み ・ 引き続き収入の確保及びコスト削減に取り組むとともに、事業運営に必要な運転資金の確保に努めます。

2022年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI		実績	達成状況
鉄道運輸収入の安定的な確保	①鉄道運輸収入の確保 KGI：鉄道運輸収入169億円の達成	定期収入	1Q	9.7億円	10.1億円	103.4%
			2Q	9.9億円	9.9億円	99.2%
			3Q	10.2億円	10.0億円	98.6%
			4Q	9.1億円		
		定期外収入	1Q	24.5億円	30.4億円	123.9%
			2Q	31.2億円	33.2億円	106.6%
			3Q	35.5億円	37.5億円	105.6%
			4Q	38.2億円		
	②利便性向上によるお客様満足の上 KGI：各種サービス・設備の導入や多言語案内の充実	1Q	多言語での列車運行情報の充実		達成	○
		2Q	待合室の拡大（阿波池田駅）		達成	○
		3Q	チケットアプリ先行稼働（割引きっぷ等の一部商品）、お客様アンケートの実施		達成	○
		4Q	デジタルサイネージの新設（56駅）、駅券売機の多言語対応の充実（徳島駅・高知駅）			
	③新チケットシステム検討・システムリリース KGI：2023年春のチケットアプリ（本稼働）の公開準備完了	1Q	2022年秋のチケットアプリ（先行稼働）公開に向けた開発を進める。		達成	○
		2Q	2022年秋のチケットアプリ（先行稼働）の公開準備完了		完了時期延期	×
3Q		2023年春のチケットアプリ（本稼働）公開に向けた開発を進める。		達成	○	
4Q		2023年春のチケットアプリ（本稼働）の公開準備完了				

2022年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI	実績	達成状況		
鉄道運輸収入の安定的な確保	④ものがたり列車・藍よしのがわトロッコ乗車人員	KGI：45,000人+フィオーレ1,790人	1 Q	14,000人+フィオーレ500人	16,205人+フィオーレ713人	116.7%	
			2 Q	13,300人+フィオーレ550人	13,577人+フィオーレ586人	102.3%	
			3 Q	11,800人+フィオーレ440人	16,150人+フィオーレ553人	136.5%	
			4 Q	5,900人+フィオーレ300人			
	⑤イベントの実施及び地域イベントと連動した取り組み	KGI：第2回予土線FunFun祭り 来場者数：2,000人 臨時列車乗車人員：500人 瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転 旅行商品・特企商品：販売額50.1百万円 (47企画 4,430人)	1 Q	◆第2回 来場者数：2,000人	来場者数：2,230人	111.5%	
				予土線FunFun祭り 臨時列車乗車人員：500人	乗車人員：500人	100.0%	
				◆瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 11.2百万円 (21企画 782人)	96.4%	
				◆瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 12.0百万円 (21企画 1,055人)	61.7%	
				◆瀬戸内国際芸術祭・えひめ南予きずな博・しおかぜ・南風リバイバル運転	旅行商品・特企商品 販売額 13.3百万円 (21企画 1,018人)	68.5%	
				4 Q	—	—	
	⑥「四国家のお宝」の更なる充実による観光振興	KGI：参加人数 1,000人	1 Q	参加人数	190人	161人	84.7%
			2 Q	参加人数	200人	12人	6.0%
			3 Q	参加人数	390人	219人	56.2%
4 Q			参加人数	220人			

2022年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI	実績	達成状況
非 鉄 道 事 業 に お け る 最 大 限 の 収 益 拡 大	⑦(株)JR四国ホテルズの売上高 KGI：64.2億円	1 Q	14.8億円	13.6億円	91.5%
		2 Q	16.3億円	15.8億円	97.2%
		3 Q	17.9億円	18.1億円	101.1%
		4 Q	15.1億円		
	⑧高松駅ビル開発の推進 KGI：建設工事（進捗率50%）	1 Q	建設工事（進捗率5%）	達成	○
		2 Q	“（進捗率15%）	達成	○
		3 Q	“（進捗率30%）	達成	○
		4 Q	“（進捗率50%）		
	⑨J.CREST県庁前（高松市天神前マンション）の 事業推進 KGI：2023年度2Qの竣工・引渡しに向けた施工と 販売活動	1 Q	第一期販売開始	達成	○
		2 Q	建築工事の推進	達成	○
		3 Q	第二期販売開始	達成	○
		4 Q	建築工事の推進		
	⑩四国キヨスク(株)のコンビニ店・土産店部門売上 高 KGI：38.4億円	1 Q	9.0億円	8.8億円	98.1%
		2 Q	10.3億円	10.2億円	98.8%
		3 Q	9.6億円	10.7億円	111.6%
		4 Q	9.3億円		

2022年度第3四半期KPI検証結果（総括表）

	項目	内訳	KPI	実績	達成状況
生産性向上・その他	⑪多度津工場の近代化 KGI：各種設計の完了、年度工事の完了	1 Q	設計の着手：各種設計 工事の完了：座席清掃装置設置	達成	○
		2 Q	設計の完了：入場前処理場、エンジン検修設備、各種試験機等	達成	○
		3 Q	工事の完了：車両ゲート等設置、エンジン塗装設備設置	不達成	×
		4 Q	設計の完了：立体倉庫設備等 工事の完了：ホール室等新築 ホール設備設置、各種試験機等取替		
	⑫コスト削減の取組み KGI：コスト削減 （JR四国1.6億円、グループ会社0.4億円） 要員削減に向けた取組みの推進 （△25名程度）	1 Q	コスト削減（JR四国0.5億円、グループ会社0.1億円）	達成	○
		2 Q	コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）	達成	○
		3 Q	コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）	達成	○
		4 Q	コスト削減（JR四国0.3億円、グループ会社0.1億円）		
	⑬運転資金の確保 KGI：現金及び現金同等物（短期貸付金を除く） の期末残高50億円以上を確保	1 Q	現金及び現金同等物（短期貸付金を除く）の期末残高50億円以上を確保	達成	○
		2 Q	〃	達成	○
		3 Q	〃	達成	○
		4 Q	〃		

鉄道運輸収入の安定的な確保

チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」サービス開始

- ・11月から「チケットアプリ『しこくスマートえきちゃん』」のサービスを開始しました。
- ・お手持ちのスマートフォンで「いつでも・どこでも」、「キャッシュレス」できっぷが買える、「きっぷ画面提示」で列車に乗れる大変便利なサービスです。各種のトクトクきっぷをご購入いただけます。
- ・また、2023年春以降の取扱商品拡大（片道乗車券、定期券、自由席特急券）に向けて開発を推進しています。



非鉄道事業における最大限の収益拡大

四国外初出店！「JRクレメントイン姫路」

- ・11月30日に兵庫県姫路市において、四国外初出店となる宿泊特化型ホテル「JRクレメントイン姫路」を開業しました。
- ・多くのお客様に選んでいただける滞在環境とおもてなしのサービスを提供します。



新規事業のアイデア募集

- ・10月20日～12月18日の間、オンライン型のオープンイノベーションプラットフォーム「Wemake」を活用し、新規事業のアイデアを募集を実施しました。また、全従業員を対象とした社内募集も同時に実施しました。あわせて約1,000件の応募がありました。
- ・2023年度内に一部の事業化を目指して、磨き上げを行います。

マリナーライナー車体広告販売開始

- ・2023年1月より、5000系マリナーライナーを使用した車体広告（ドア横ステッカー）の販売を開始しました。
- ・広告事業の新規媒体として、収益の拡大に繋がります。



地域と連携した取組み

モーダルミックスによる利便性向上施策の実施

- ・2022年10月22日～2023年1月31日の期間、公共交通の利用促進および地域に最適で持続可能な「公共交通ネットワークの四国モデル」構築を目的に、モーダルミックスによる利便性向上施策（実証実験）を実施しました。
 - JR高徳線（志度駅、造田駅）とさぬき市コミュニティバス（志度—造田—多和線）
 - JR高徳線（三本松～引田）と大川バス（引田線、五名福栄線）

MaaS関連の取組み

- ・2022年4月から徳島バスと共同経営を開始していますが、地域公共交通の利便性向上と利用促進を目的としてスマートフォンでバス・鉄道をシームレスに利用可能とする実証実験を実施しました。
 - 【実施期間】2022年11月16日～2023年2月15日
 - 【実施内容】共同経営区間において、駅やバス車内等に設置したNFCタグを用いたスマホタッチ支払い

その他

- ・特急列車を活用した相互輸送（貨客混載）・販売の実証実験
愛媛県産みかん、岡山県産ぶどうを相互輸送、岡山駅、松山駅で販売